

第4四半期米GDPへの期待につながる好結果なるか~米耐久財受注

2019年12月23日(月)

今週はクリスマスウィークということで、世界各国で主要な経済指標の発表は予定されていません。通常月末に発表される米国のGDP、PCEデフレーター、シンガン大学消費者信頼感指数確報値なども、先週すでに発表が済んでいます。

取引参加者が一年で最も少なくなる時期で、金融機関・機関投資家なども休暇に入っている人が多くっており、取引は基本的に閑散となります。

ごく稀にクリスマス関係なく取引を行っている石油マネーなどの大口の売り買いが入り、相場が乱高下することがありますが、通常は膠着したまま落ち着いた相場となることが多いです。

こうした中、今週発表される経済指標で注目したいのが、23日22時半に発表される11月の米耐久財受注(速報値)です。

米国の設備投資動向との関連が深い同指標。米国の設備投資の低迷が、前期に比べて冴えない数字となった米第3四半期GDPの要因の一つとなっているだけに、今後注意してみたい指標となっています。

前回10月分の耐久財受注は総合、変動の激しい輸送部門を除いたコアともに+0.5%(確報値・速報時点では共に+0.6%)と、ともに予想を大きく超える好結果。

耐久財受注は9月分が予想を下回りともにマイナス圏(総合-1.4%、コア-0.4%)と厳しい数字だっただけに、第4四半期の設備投資の回復を期待させる数字となりました。

とくに、内訳のうちGDPとの関連が深いといわれる航空機を除く非国防資本財の受注は+1.1%と今年1月以来の好結果。同部門は第3四半期である7月、8月、9月がそれぞれ0%、-0.8%、-0.5%とかなり厳しい数字だっただけに、市場の設備投資に対する厳しい見方を後退させる結果となっています。

こうした状況を受けて、今回11月分の予想ですが、耐久財受注が+1.5%、輸送部門を除いたコアが+0.2%、コア資本財が0%という予想になっています。

米中協議の進展を受けて、出荷の増加が期待されているところもあり、耐久財受注も拡大が期待されるところですが、前月の数字が強かっただけにコア資本財受注はいまひとつ鈍い数字となっています。

全体としてはそれほど弱い数字ではなく、耐久財受注及び同輸送部門除くコアが予想前後、コア資本財受注が予想を少しでも上回ってプラス圏という結果が出てくると、第4四半期の米GDP成長率が大きく落ち込む可能性は少ないという安心感につながり、ドル買いに作用すると期待されます。

なお、前回のコア資本財受注の予想は前月比-0.2%。結果は速報時点では+1.2%となりました。前回同様に予想をはっきりと超える好結果が出てくると、ドル買いが加速する可能性も十分にありそうです。

なお同日(日本時間では24日の午前0時)に11月の米国の新築住宅販売件数が発表されます。

ここ3カ月連続で70万件超えとここにきて好調な状況を示す同指標。今回の予想も73万件と好調を維持すると期待されています。上半期の平均が67万件程度ですから、かなりしっかりしてきたという印象。

住宅市場が活性化するためには、雇用市場が好調で、先行き見通しもしっかりしていることが重要となりますので、こうした状況はかなりの好印象です。

予想もしくはそれ以上の数字が出てくると、ドルのサポート材料となりそうです。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」では責任を一切負いかねます。「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドに帰属し、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド